

関わり続けるという定住のカタチの実践

—石の上にも14年、兵庫県丹波市青垣町での取組み—
一般社団法人カンデ/関西大学佐治スタジオ 研究員 出町慎





理念

協働と実践による、良好な集住環境のデザイン

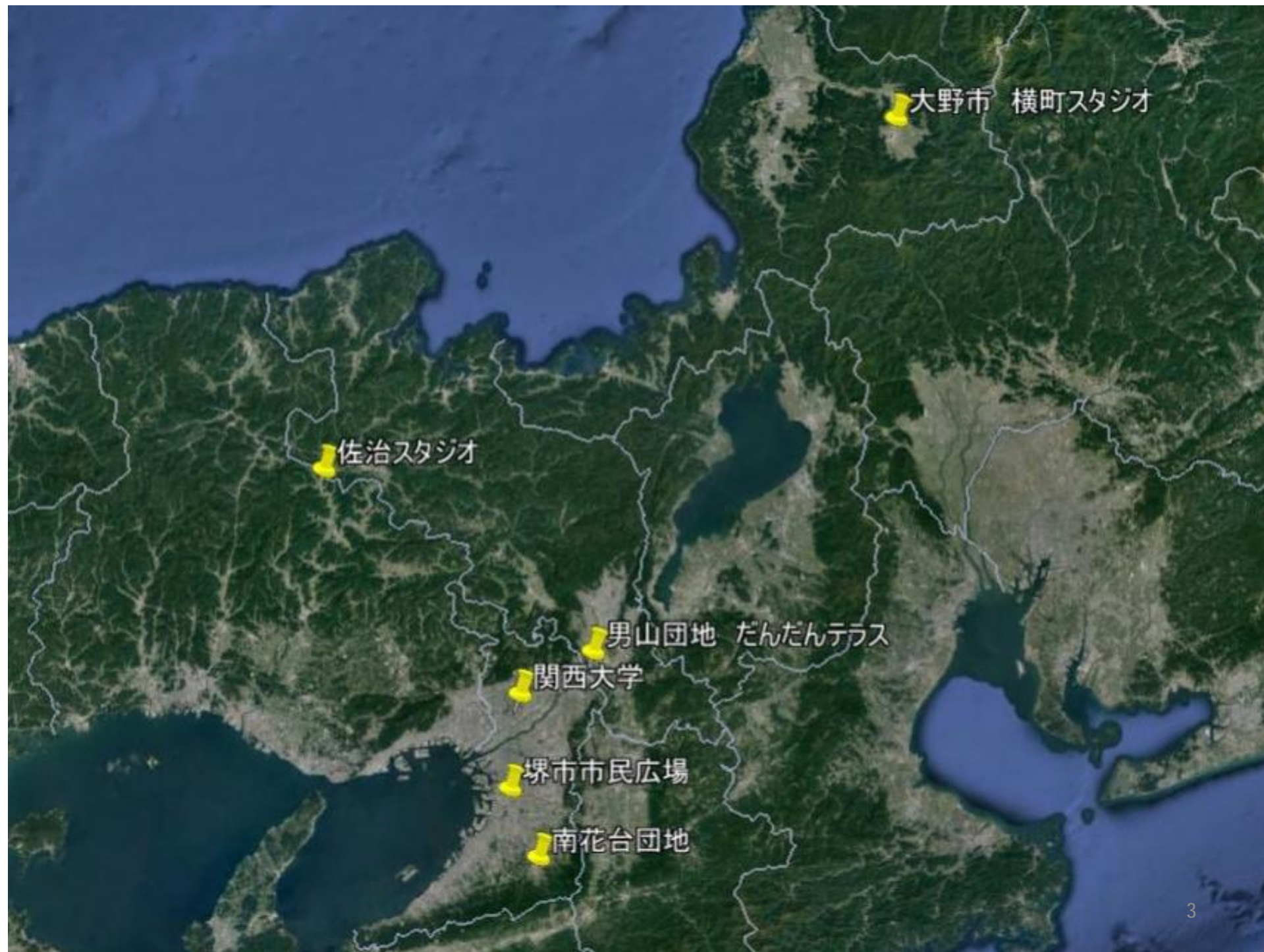
作法

みんなが考える場をつくる

関わり続ける定住のカタチ

場所をつくる過程をデザインする

など



01 「関わり続ける」定住のカタチとは

-関西大学佐治スタジオの活動紹介-

02 景観づくりと暮らしの豊かさ

-空き家活用サークル「佐治倶楽部」の活動紹介-

2004年11月 氷上郡旧6町が合併し丹波市発足



佐治での暮らし

中佐治の家

青垣町

人口約7,100人

人口密度71.0人/km²

丹波市

人口約64,540人

人口密度131.0人/km²

河内長野市

人口約106,800人

人口密度974.0人/km²

八幡市

人口約72,597人

人口密度2,980人/km²

佐治スタジオ

© 2016.ZENRIN





佐治農園

センバヤ

本町の家

佐治スタジオ

衣川會館
/SAJIHAUS

© 2016 ZENRIN

画像取得日: 2015/6/4 35° 14'53.87" N 135° 00'09.18" E 標高: 135





関わり続けるという定住のカタチ

関わり続ける中でしか「見えてこない」ものがある
長い時間をかけながら「地域の再生」を考え続ける

21世紀の故郷作り

豊かな山河に囲まれた美しい故郷を持つことができる
将来にわたり訪れ、帰ることのできる故郷のような場所



先に話をまとめると・・・

● 「関わり続ける」

⇒ 「答え」はすぐに出ない…動きながら考え続ける。

⇒ 「協働する場」と「協働する余白」

● 小さく作る、小さく重ねる、小さく動かす

⇒ 結果より、過程＝プロセスをデザインする

⇒ アイダをデザインする

● 自分たちの暮らしを楽しくするのは「自分たちだ」



「関わり続ける」拠点をつくる

大学の活動拠点・地域の交流拠点 関西大学佐治スタジオ



空き家リノベーション
を通じて地域と関わる



まちの「居場所」を作る。 15

学生が主体的に改修を行う。



図面はない…考えながら議論しながら作る。

時間をかけて作る。



改修プロセスをオープンにする。





「暮らし」の気配をまちへ…居場所がある安心感



まちの「居場所」を作る。



夏季休暇は大学生の滞在型講座の実施





滞在型講座の実施



活動当初は365日開けていた。

が、現在週に3日ほどしか空いていない。

何気なく足を運ぶ方々が極端に減ってきた。

居場所を維持するための活動から
居場所を日常の延長の中で「活かす」暮らしへ



景観づくりと暮らしの豊かさ

-空き家活用サークル「佐治倶楽部」の活動紹介-









地元の誇りを再生する
- 衣川會館のお話 その1 -





空き家活用サークル

佐治倶楽部

空き家を 地域の資源に

無いものは
自分たちで
作ればいい。

地域で楽しく暮らす。

空き家を活用する方法を考えるワークショップ

みんなでシェア

社会実験を重ね、

個人

「空き家をシェアしてる感じ」

佐治倶楽部としての事業は基本的にない

言いだしっぺがリーダー

佐治での暮らしが楽しくなることをしよう

主な部活動の紹介



百合姿着付け教室



子供向け茶道教室



生け花教室



主な部活動の紹介



合宿授業で滞在中の学生へ食事を用意してもらっています。



BAR Saji Studio
交流する

「居場所」

「やってみたい」
をカタチにする場



男の生け花教室





地元が地元に関わり続ける
「きっかけ」を作る

空き家活用サークル「佐治倶楽部」
空き家を使ったシェアオフィス・コワーキング事業

兼業を生み出す仕掛け



氷上西高校まちづくり部

第4回

放課後カフェ

10月15日(火)

13:30-夕方まで

@佐治スタジオ(佐治683)



小さな実践の積み重ねの先にある風景を目指して。

地域の中だけで考えてはいけない。

相互に「関わりあう」

故郷のように「関わり続けあう」

⇒多様な協働と交流を生み出す仕組み

⇒アイダをデザインすること

山とまちのアイダで…。



男山団地にも丹波の木材&パレット…

丹波という故郷つき団地!?



山とまちのアイダに…。

「関わり続ける定住のカタチ」

社会の流動性を高める

アイダをデザインする仕事

小さな実践の積み重ねで社会をデザインしていく